報　　文

論文タイトル　横サブタイトル横　13.5pt

東薬　太郎\*1, 東　次郎2, 産総研三郎3, 東薬　九郎1,410pt

400 字程度．9pt．◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．

1　大見出し10pt

本文9pt　投稿原稿は，原則としてこのテンプレートで仕上げられたものに限ります．受理された原稿は編集委員会で確認後印刷会社に渡され，テキスト属性を引き継いだ形で組版されます．それぞれの段落には対応する「段落スタイル」を適用させておりますので，ご参考ください．

投稿に際し，「分析化学」投稿規定と投稿の手引きをご覧ください．以下に本誌の原稿作成指針を示します．本ファイルはホームページからダウンロードできますので，テンプレートとしてご使用ください．

ここに示したようなフォーマットでの原稿作成が困難な場合には，申し出があれば編集委員会において，ワープロソフトを用いて原稿を仕上げますが，別刷り代の他に，ページ数に応じて編集構成費が必要となります．ただし，テキスト，写真などの電子ファイルが添付されていないものはお受けできません．原稿提出時に投稿カード備考欄にその旨記載してください．

上記の様に「テキスト属性を引き継いだ形で組版」が原則となりますので，上付き・下付き，*Italic*・**Bold**等の指定は確実に行ってください．スタイルを指定し，フォントの上付き・下付き、イタリック、ボールドの各属性を指定して下さい．

＊E-mail : ○○@toyaku.ac.jp　8pt

1 東京薬科大学生命科学部分子生命科学科：192-0392　東京都八王子市堀之内1432-1

2 東京薬科大学大学院生命科学研究科分子生命科学専攻：192-0392　東京都八王子市堀之内1432-1

3 株式会社分析技術総合センター：000-0000　東京都□□□□□1-1-1

4 現在所属　京都薬科大学生命科学部分子生命科学科：000-0000　京都府京都市上京区○○1-1

2　大見出し

原稿は本テンプレートで作成してください．

対応の段落スタイルを適用させれば作成できますが，参考までに基本設定を以下に記します．

ページの余白（マージン）は以下となっておりますが、変更は不可といたします．

上　30 mm, 下　20 mm，左　20 mm, 右　20 mm

一行の文字数（2段組み部分） 26文字

1ページの行数 　　　　 47行

タイトルの文字サイズ 　13.5pt(ポイント)

著者名　　　　　 　10pt

所属機関名 　 8pt

タイトル(大見出し) 　10pt

タイトル(中・小見出し) 　 9pt

本文の文字サイズ 　9pt

一部発表済みの場合 　8pt

謝辞（見出し・本文） 　9pt

文献（見出し・本文） 　9pt

タイトル英文名 　12pt

著者英文名　　　 　10pt

所属機関英文名 　10pt

（受理年月日） 　　　　　　9pt

英文抄録 　10pt

Keyword 　10pt

句読点は，全角の「，」「．」を用いて下さい．フォントはMS明朝体を，英文フォントはTimes New Romanを標準とします．見出等の太字はMSゴシックとTimes New Roman Boldの組み合わせとなります．

英数字に和文の全角フォントは使用しないでください．

旧字・外字の扱いに関しましては事務局へお問い合わせください．再現できる文字とひらがな表記へ変更させていただく場合があります．

2·1　図・表

図，表などはこのドキュメント末尾の空白ページに貼り付けておいてください．

本文中で引用する場合は，Fig. 1, Table 1, …，となります．カラー印刷を掲載する場合は，掲載料の実費を投稿者負担とします．

表は英文で作成し，縦けい線を入れないでください．表題は表の上部に，説明は表の下部にそれぞれ記入してください。

図の表題及び説明は英文で作成し，表題と説明の間は改行してください．表題にはピリオドをつけないでください．

サイズなど詳細は図表配置ページに記載しておりますので参照してください．

2·2　数式

数式はワープロソフトの数式機能で作成して下さい．式にはカッコ（　）で囲んだ通し番号をつけ，その行の右端に置き，数式は文章の一部とみなし，式の直後に，文脈に応じてピリオド「．」あるいはコンマ「，」をつけます．本文中に引用の場合は，式（1），などと記入してください.単位の記法は原則としてSI単位系を用いて下さい．

, 　 (1)

.　 (2)

片段に納まるサイズで作成してください．

数式も図表と同様に，画像化して運用いたします．

ただし，図表のように末尾ページにまとめるのではなく，通常通り本文中に組み込んでください．

3　結果と考察

本文には，例えば，緒言，理論，実験，結果，考察，結言等の見出しを付けて書く．

引用文献番号は本文中その項目の右肩に上付きで1)2)，又は3 件以上の文献を引用する場合は，3)～5)のように通し番号を記す．◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯1)2)．◯◯◯3)～8)，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯（Table 1） 11)◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯8)～10)12)．◯◯◯◯◯◯◯◯◯（Fig. 1）◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．

3·1　中見出し

3·1･1　小見出し　　大見出しは緒言、実験などの大きな区分で用い、その下の詳細を中見出し、さらに小見出しと階層化して分けて下さい．

◯◯◯．◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯，◯◯◯◯◯．

◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯

4　結　　　言

◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．◯◯◯◯，◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯．

謝　　　辞

　本研究の一部は，日本学術振興会科学研究費補助金「基盤研究（B）」（○○○○）の支援によりなされたことを付記し，ここに謝意を表します．

（平成00年00月00日，★★★★★★★★★★★及び平成00年00月00日，★★★★★★★★★★★において，一部発表）

文　　　献

文献は論文末尾に項目を設けてまとめて書いて下さい．本文中には通し番号で，文章の句読点の前に2) 3)などと9 ptの上付き文字で表記します．一つの文献の終わりにはピリオドを打ちます．雑誌名は，Chemical Abstracts の略し方に従います．

著者：（英文の場合、半角の コロン:を使う）雑誌名（英文名は斜体とする．和文は斜体にしない．），巻（太字体とする），開始ページ（発行年）．

以下に示してある参考文献の表記例は，1)~6)学術雑誌，7)~8)国際会議または公開している学会要旨集，9)~13)単行本，14)~18)その他です．

1) 宮川雅恵：分析化学 (*Bunseki Kagaku*), **43**, 57 (1994).

2) 樋口精一郎，島田秀樹，田中誠之：分析化学 (*Bunseki Kagaku*)，印刷中．

3) 小田嶋次勝：ぶんせき (*Bunseki)*, **1988**, 608.

4) A. Hulanicki : *Anal. Sci.*, **7** , 1405 (1991).

5) T. Toyaku: *J. Chromatogr*., **17**, 126 (2013).

6) S. Sansoken, T. Toyaku, H. Bunseki: *Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.,* **256**, 104 (1998).

7) 森　定雄，森　貴代：日本分析化学会第 41 年会講演要旨集，p. 392 (1992).

8) K. Matsumoto, K. Fuwa : Abstracts of VI International Symposium on Solute-Solute-Solvent Interactions, p. 85 (1982), Osaka.

9) 相島鐵郎：“ケモメトリックス”，p. 69 (1992), (丸善)．

10) B. Magyar : “*Guide-Line to Planning Atomic Spectrometric Analysis*”, p. 63 (1982), (Elsevier Sci. Pub., Amsterdam).

11) 内野栄治，都築俊文：“水の分析”，第 4 版，日本分析化学会北海道支部編，p. 445 (1994)， (化学同人)．

12) R. M. Measures : “Analytical Laser Spectroscopy”, Edited by N. Omenetto, p. 362 (1979), (J. Wiley & Sons, New York).

13) 辻内順平訳：“フーリエ変換とその工学への応用”，p. 81 (1977)，(共立出版)；P. M. Diffieux : “L’Integrale de Fourier et ses Applications a l’Optique”, (1970), (Masson et Cie, Paris).

14) 住友金属工業：日本特許公開公報，昭 56-34, 061 (1981. 9. 7).

15) JIS G 1215，鉄および鋼中の硫黄定量方法（1982）.

16) T. M. Stevens, T. E. Miller, Jr. : U. S. Patent 4290775 (1981. 9. 22).

17) ASTM E 169-63, General Techniques of Ultraviolet Quantitative Analysis (1963).

18) International Federation of Library Assoc. and Inst.: “*Resources and project*”, IFLANET, available from <http://www.ifla.org/II/html>, (accessed 1999-11-30).

Title English ―subtitle―

Taro TOYAKU\*1, Saburo SANSOUKEN2 and Kuro TOYAKU1（氏は大文字のスモールキャピタル）

\* E-mail : ○○. toyaku.ac.jp

1 Department of Molecular Life Sciences, School of Life Sciences, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, 1432-1 Horinouchi, Hachioji, Tokyo 192-0392

2 Department of Chemistry, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 1-1 Umezono, Tsukuba, Ibaraki 305-8565

 (Received October 4, 2015; Accepted November 18, 2015)

Abstract（報文，技術論文，速報及び総合論文については300word以内，ノート及びアナリティカルレポートは250word以内を目安とする）.

Keywords： keyword1; keyword2.（←10p,小文字表示，セミコロンで区切る,副詞･接続詞･前置詞などは使用しない）

図表配置ページ

図表は本文とは別ページにまとめて配置して下さい．

片段の場合の横幅は**82mm**



Fig.1 タイトル（ピリオドなしで改行）9pt

9pt 説明文□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆

全段の場合の横幅は**170mm**

最大の高さは**246mm**

1ページ大に横倒しで配置する場合は，横幅**246mm**，高さを**170mm**とします．

上記サイズは全てキャプション込みの数値です．

写真や図でカラー掲載を前提としない場合はグレースケールで作成してください．

上記サイズに則り，原寸で作成してください．

画像データは**350dpi**のグレースケール**TIFF**形式で作成し，Wordファイルとセットで入稿してください．

画像の中に文字がある場合は**600dpi**〜**1000dpi**を推奨いたします．

カラーの場合は**CMYK TIFF**形式といたします．

他ソフトウェアで作成された図を貼り込み，拡大縮小が必要な場合は注意が必要です．

拡大の場合：

文字が本文文字サイズより大きくなることは避けてください．

拡大率によっては画像の解像度が粗くなってしまいます．

縮小の場合：

罫線の幅が0.1mmを下回ると印刷時に再現されず消えてしまう可能性があります．

文字が小さくなりすぎて一部の記号（例えばマイナス記号や矢印等）が判別できなくなる可能性があります．

カラー画像で入稿し，グレースケールで印刷する場合：

画像を処理する際に多く見受けられるのが，見た目はグレースケールでもデータ上はRGBやCMYKの場合がございます．

このような場合は強制的にグレースケールへと変換されます．

また，見た目が鮮やかなカラー画像をグレースケールで運用する場合，色の組み合わせによっては隣接色との識別が困難な場合があります．

そのようなトラブルを未然に防ぐためにも，予めグレースケールでの運用をお願いいたします．



(a) Sub Title / µg mL-1



(b) Sub Title

Fig.1 タイトル（ピリオドなしで改行）9pt

9pt 説明文□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆□□□□■□□□□◆

Table 1 　Rate constant (*k*) for 2HI(g) → H2(g) + I2(g) at absolute temperature (*T*) a）（ピリオドなし）9pt

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 表内文字 | *T*/K | *k* × 105/dm3 mol–1 s–1 b） |
| Text | 556 | 0.0352 |
| 8pt | 575 | 0.122 |
|  | 647 | 8.59 |
|  | 666 | 22.0 |
|  | 683 c） | 51.2 |

a）Annotation.　b）Annotation.　c）Annotation.

注釈a）b)表中記号は上付き,図下は並字,単位はｽﾗｯｼｭ表示(ｶｯｺを使わない) 8pt